40 Anniversary

周年記念誌

絆

十日町地域広域事務組合

地域の安らぎ、平静を願い
「鎮」の一文字にたくしたもの

題字／岡村松烟

発刊に寄せて

十日町地域広域事務組合
管理者 十日町市長　関 口 芳 史

十日町地域広域事務組合は、昭和47年４月20日に当時の十日町市、津南町、川西町、中里村の４市町村で組織する一部事務組合として発足し、翌48年４月１日に消防事務を加えて本格的に業務を開始して以来、本年で40周年を迎えました。

この間、松代町、松之山町の加入やその後の市町村合併もあり、組合の構成市町は十日町市、津南町の１市１町となりましたが、組織体制と装備の充実を図り、地域住民に期待される組合として発展することができました。

これもひとえに、構成市町をはじめ、組合議会、これまで組合行政発展のためにご尽力をいただきました関係各位そして地域住民の皆様のご理解とご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

近年は、社会情勢の変化による火災や事故、救急需要の増加、加えて中越地震や東日本大震災などの大地震、新潟・福島豪雨による水害などの自然災害を含め、その態様は複雑多様化しており、消防に寄せられる期待は年々大きくなっております。この意味におきましても、住民の生命、身体、財産を守る消防の役割はさらに重要性を増しており、常備消防と車の両輪をなし、地域防災の要として活動する消防団の存在価値もますます高まっております。

組合発足以来40年間培ってきた経験と実績を基礎として、地域住民の安心・安全に対する期待に十分応えられるよう、新消防庁舎の整備をはじめ、新十日町病院内への救急ステーションの設置など、より高度な消防救急体制の確立と関係機関との連携の深化に全力を傾注していく所存でございます。

このたびの40周年を契機として、皆様のさらなるご理解とご支援、ご協力をお願い申し上げます。

十日町地域広域事務組合
40周年記念誌

INDEX

発刊に寄せて……十日町地域広域事務組合　管理者十日町市長　関口芳史
十日町地域広域事務組合の概要…… 1
十日町地域広域事務組合組織機構図…… 2
消防本部・署・分署…… 3
消防団…… 8
火災・救急・救助出動の推移…… 11
災害の記録　新潟県中越地震…… 12
新潟県中越沖地震…… 14
長野県北部地震…… 15
平成23年新潟福島豪雨…… 16
豪雪…… 18
訓練紹介…… 20
緊急消防援助隊…… 22
救助技術大会…… 23
広報…… 24
家畜指導診療所…… 26
大地の芸術祭…… 28
発刊にあたって…十日町地域広域事務組合　事務局長・消防長　齊藤　勝

十日町地域広域事務組合組合章

円中央の３つのデザインは、事務・事業の「J」、十日町の「T」、地域の「T」のアルファベット頭文字を表し、事務・事業は管内市町ですべき一部事務を当組合で処理することを意図しています。

また、楕円は地域がスクラムを組んで連携強化を図り、外側の円は地域住民生活の安全と豊かさを守ることを表現したものです。

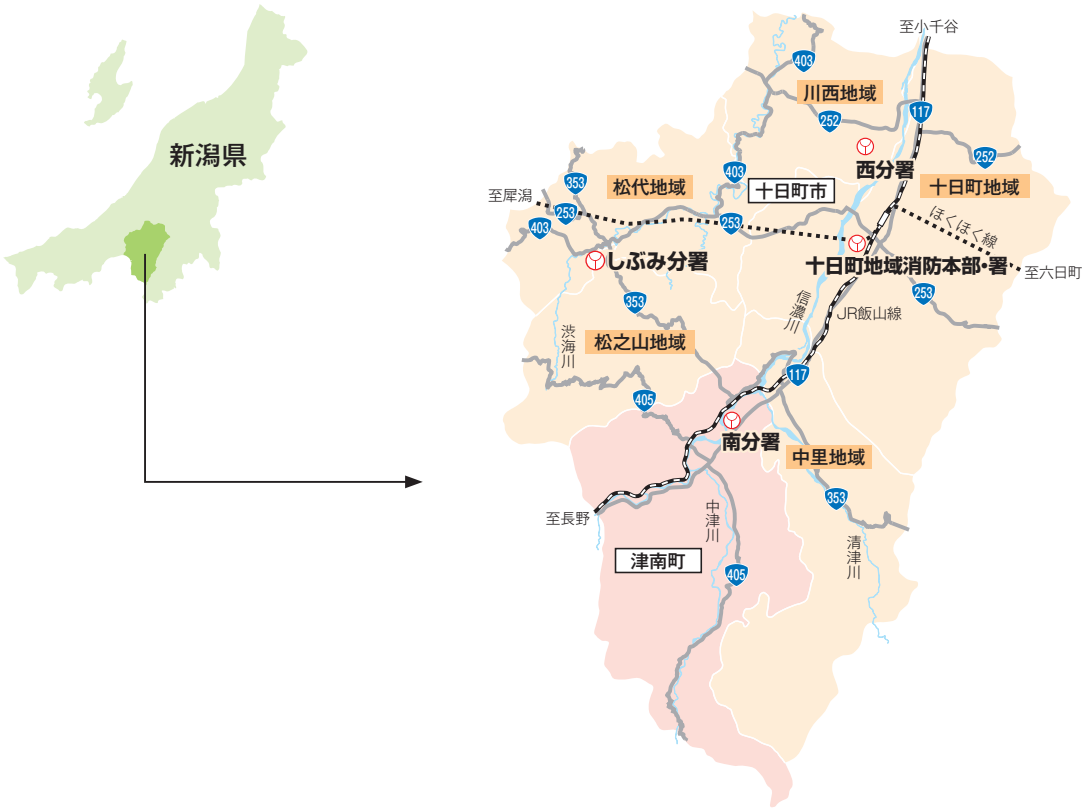
十日町地域消防本部・署エンブレム

中央上部に雪の結晶を配し、消防の象徴であるホースとロープ及び炎を周囲に配しました。

雪の結晶は、豪雪地帯である十日町広域の旧六市町村を意味し、その周囲をホースとロープで囲むことにより豪雪地帯を守る消防をアピールしています。

ロープは通常白色を使用していますが、茶色としました。これは縄文式土器の縄のイメージを引っかけたもので、縄はその結い方によりちょっとしたロープのように強度を増すことから、小さな消防でも個々の力を結い合わせることにより、組織力や消防力を高めたいという願いが込められています。

■管内位置図　十日町市・津南町



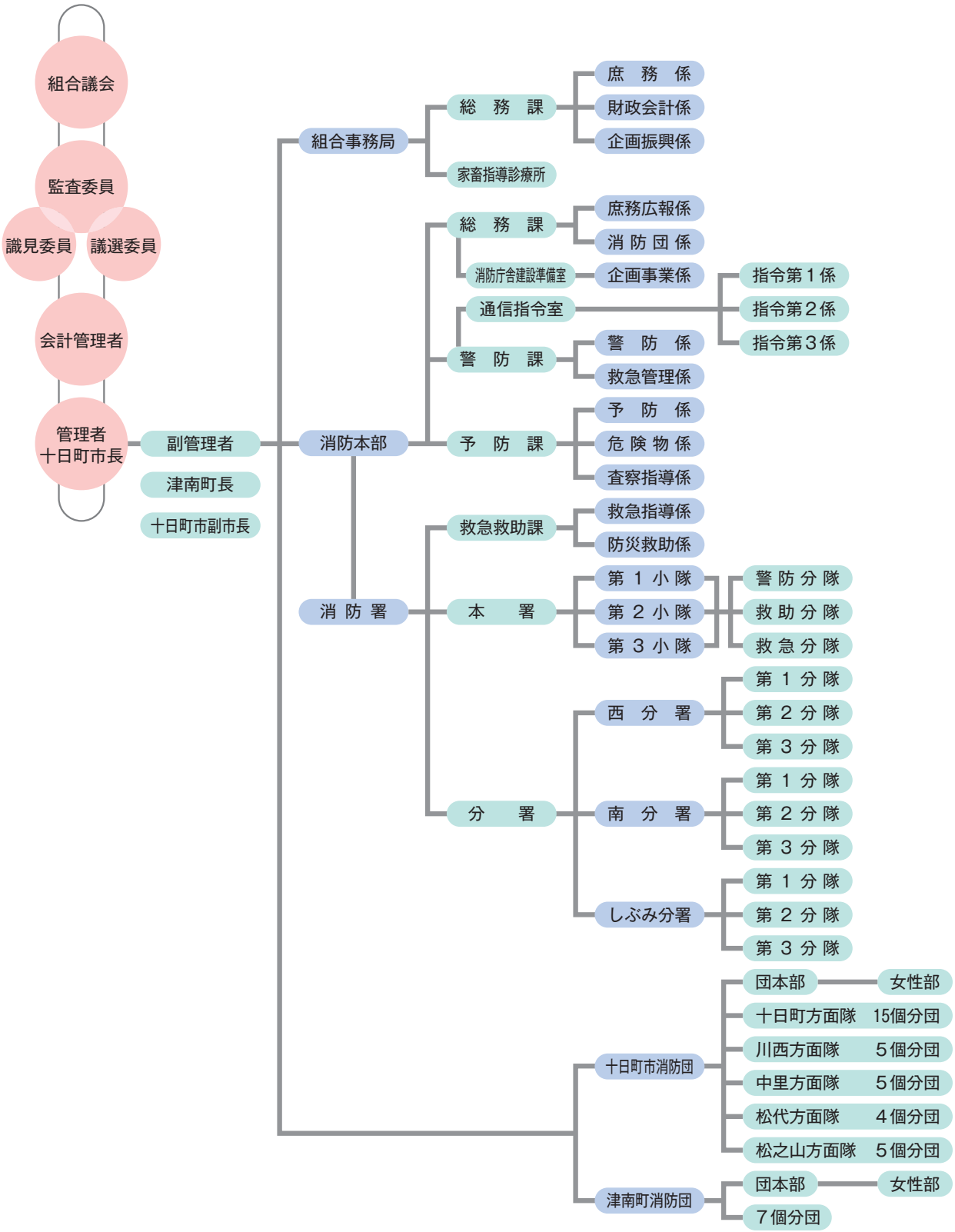
■十日町地域広域事務組合の位置・地勢

この圏域は新潟県の南西部に位置し、東西32㎞、南北43㎞の広がりをもち、総面積760.20㎢で新潟県の6.1％を占める地域です。周囲は長岡圏、柏崎圏、上越圏、魚沼圏及び長野県の北信圏に隣接し、圏域の東側は、魚沼圏との境界の山脈台地に標高2,145mの苗場山を中心とする山岳地帯が連なり、西側は上越圏との境界に標高540mの鍋立山があります。河川は、圏域の中央部を信濃川が長野県境より北に貫流し、県の主要な河川である渋海川、清津川、中津川等が流れ、圏域の最南東部は清津峡をはじめとして、上信越高原国立公園に指定されているほか、信濃川によってもたらされた雄大な河岸段丘は変化に富んで美しい自然環境をなしています。

■面積・人口・世帯数

区　　分	面　積（㎢）	平成22年国勢調査（確定）		平成15年3月31日住基		平成25年3月31日住基		10年比	
		人　口	世帯数	人　口	世帯数	人　口	世帯数	人　口	世帯数
十　日　町　市	589,92	58,911	18,983	64,965	19,736	58,396	20,087	△6,569	351
十日町地域	212.77	－	－	43,256	13,190	39,769	13,729	△3,487	539
川 西 地 域	73.55	－	－	8,066	2,276	7,180	2,329	△886	53
中 里 地 域	128.97	－	－	6,337	1,689	5,596	1,708	△741	19
松 代 地 域	88.32	－	－	4,245	1,485	3,535	1,399	△710	△86
松之山地域	86.31	－	－	3,061	1,096	2,316	922	△745	△174
津　南　町	170.28	10,881	3,482	12,353	3,711	10,777	3,621	△1,576	△90
合　　計	760,20	69,792	22,465	77,318	23,447	69,173	23,708	△8,145	261

十日町地域広域事務組合組織機構図



消防本部 消防署

■**所 在 地**　十日町市北新田１番地の10
■**構　　造**　鉄筋コンクリート造一部３階建
■**建築年月**　昭和49年10月

平成17年５月高機能消防指令センター運用開始

全員出署訓練（集団救急対応訓練）

西分署

■**所 在 地**　十日町市霜条144番地１
■**構　　造**　鉄骨造２階建
■**建築年月**　昭和48年11月

高所救助訓練

かわにし雪まつり会場で防火 PR

南分署

■**所 在 地**　津南町大字下船渡乙1097番地１
■**構　　造**　鉄骨造４階建
■**建築年月**　平成９年３月

小松原湿原の搬送訓練

雪上活動を想定した救助訓練

南分署脇のグラウンドに着陸する
新潟県防災ヘリ

しぶみ分署

平成23年４月、松代分遣所と松之山分遣所を統合し、しぶみ分署として業務を開始しました。

それまで、各分遣所が松代、松之山地域の「安心・安全」を担ってきましたが、当直３人勤務体制であったため、救急出動時などには残置隊員はなく、並行して発生した災害への対応が難しい状況にありました。

両分遣所の統合により､「分署」へ移行するとともに「当直５人勤務体制」「救急救命士の配置」を実現し、「消防力の充実」「救急サービスの向上」を図り、災害発生時の活動展開の充実、被害の軽減、災害の早期終息が期待できるほか、救急救命士による早期の高度救命処置により救命率の向上が期待できます。（写真は、旧分遣所庁舎と閉所式で看板を下ろす様子です。）

■**所 在 地**　十日町市松之山小谷969番地５
■**構　　造**　鉄骨造４階建
■**建築年月**　平成23年３月

●**配置車両**　消防自動車1台
高規格救急車1台
救急自動車1台
査察広報車1台

●**訓練施設庁**　舎側面設置登はん板（15m）
駐車場兼訓練場（1,400m）

※ポンプ操法及び各種訓練が可能

【事務室】
職員個々の固定したデスクを設けず、空いてる席を自由に使うフリーアドレスオフィスとし、スペースを有効利用します。また出動の障害にならないようＯＡフロアーとし、各種配線を床下内に納めています。

【自家用発電設備】
災害発生時の非常用電源として自家用発電設備が設置されており、災害活動に支障をきたさない電源が確保されております。

【除染室】
救急滅菌室の横に配置し、感染症などに対応できるよう自動ドア、シャワー室を完備しています。

十日町市消防団

内閣総理大臣表彰

県消防大会優勝

団本部

「幹部としての誇り高き想いと女性部の笑顔と広報」

- 団長　富井利明
- 総員　33名
- 女性部（つくし）24名

十日町方面隊

「多発する自然災害に立ち向かう熱き消防魂」

- 方面隊長　村山　昭
- 全15分団
- 総員　963名
- 車両　17台
- 小型動力ポンプ　83台

川　西方面隊

「崇高な消防精神」

- 方面隊長　高橋　武
- 全５分団
- 総員　300名
- 車両　11台
- 小型動力ポンプ　28台

平成17年４月１日、市町村合併により十日町市・川西町・中里村・松代町・松之山町の各消防団が合併し、新たな十日町市消防団が設立され、旧消防団区域を方面隊として組織しました。

平成18年７月には女性消防団員「つくし」が発足し、女性ならではの視点に立った火災予防や広報活動、応急手当普及活動に取り組んでいます。

平成23年には新潟福島豪雨災害の活動が評価され、内閣総理大臣表彰を受章するとともに、同年に行われた第62回新潟県消防大会小型ポンプ操法の部で中里方面隊第４分団が見事優勝しました。

中里方面隊

「住民の心に寄り添う消防マン」

- 方面隊長　樋口勝彦
- 全５分団
- 総員　318名
- 車両　７台
- 小型動力ポンプ　26台

松代方面隊

受け継がれる消防魂

- 方面隊長　小堺光夫
- 全４分団
- 総員　175名
- 車両　７台
- 小型動力ポンプ　13台

松之山方面隊

自然豊かな温泉郷を守る

- 方面隊長　相澤　敏
- 全５分団
- 総員　184名
- 車両　６台
- 小型動力ポンプ　14台

津南町消防団

「悠久に誇り高い消防団」

- 団長　大島則雄
- 全７分団
- 総員　585名
- 車両　13台
- 小型動力ポンプ　61台

昭和30年１月１日、町村合併により外丸村、上郷村、芦ヶ崎村、秋成村、中深見村、下船渡村６か村の消防団が合併し、津南町消防団を創設以来、初代清水団長から現在の第10代大島団長まで58年間に亘り、地域住民の生命財産を守り、各種災害に対処し、被害を最小限にくい止めるため積極的に訓練を実施しています。

平成22年４月１日、女性消防団員を採用し、翌年には津南町の花「ひまわり」にちなみ、「ひまわり隊」と愛称を決定して女性らしさを強調し、予防広報や防火啓発、応急手当普及活動等を積極的に展開しています。

平成25年６月30日に２代目消防団旗を新調し、新団旗樹立式において、町民の安心、安全を守る消防団の伝統を継承する「悠久に誇り高い消防団」として精進することを誓いました。

新団旗

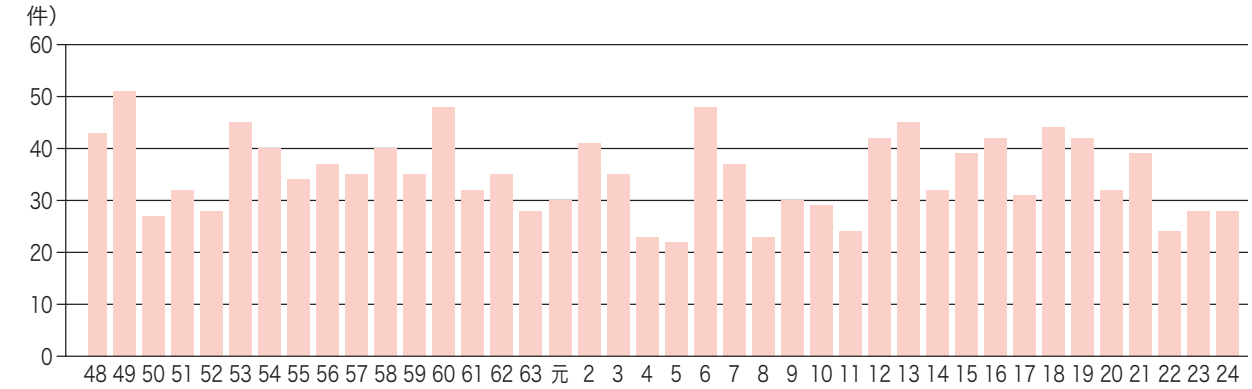
津南まつり民謡流しで防火PR

表彰旗

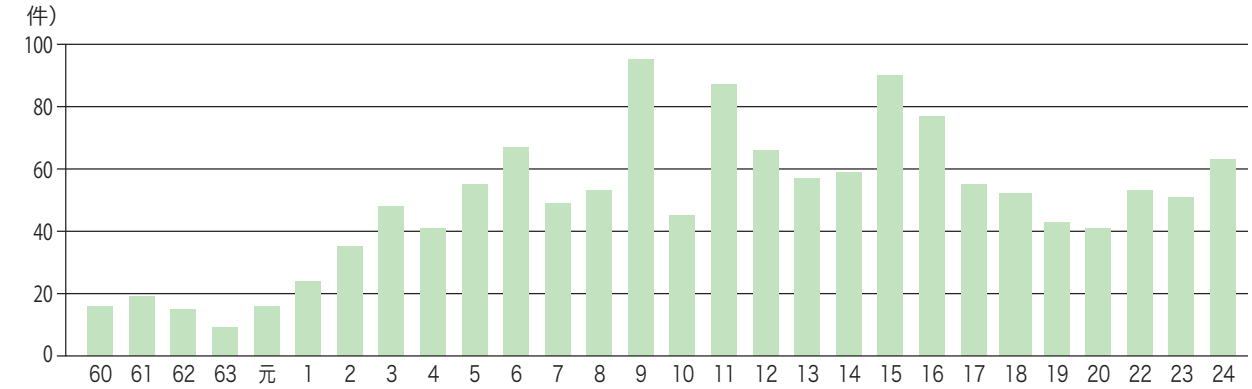
女性部愛称「ひまわり隊」に決定

消防署出動状況

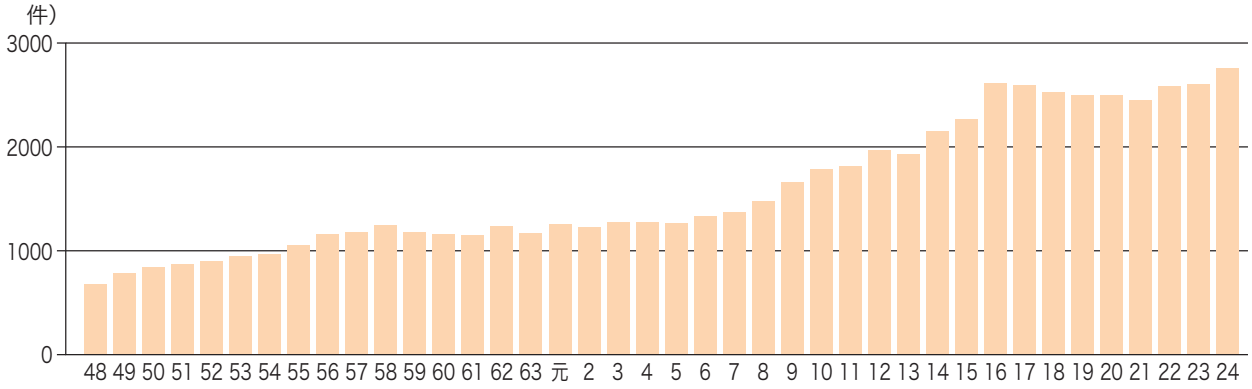
火災件数



救助件数



救急件数



新潟県中越地震

平成16年10月23日㈯午後５時56分頃、新潟県中越地方を震源とするマグニチュード6.8の地震が発生。

十日町市（旧川西町・旧中里村・旧松代町・旧松之山町を含む）でも震度６弱以上の揺れを２回観測し、死者９人、重軽傷者592人、家屋の全半壊は1,200棟を超え、道路寸断、土砂災害など多大な被害を受けました。

大きく傾いた建物（十日町市二ツ屋）

倒壊し、１階部分が完全につぶれた民家（十日町市袋町）

大規模な山崩れ（十日町市樽沢）

大量のボトルが落ちた酒店

東京消防庁ヘリコプターで十日町病院の緊急患者を搬送

救急車待機

発災直後、中条病院の入院患者を搬送する消防団員

中条病院から消防団に送られた感謝状

1 消防本部の対応

⑴職員の参集・団員の出動

新潟県中越地震発生と同時に消防計画による地震第二次配備態勢を発令、全職員の招集と管内全消防団の出動が発令され、発生後１時間で67％、24時間以内で派遣職員等を除く全職員が指定された署所に参集しました。消防団員は、発災当日管内６消防団で延べ1,587人が出動しました。

⑵消防本部震災指揮本部の設置　10月23日　午後６時12分

2 出動状況　10月23日～11月11日

⑴火災発生件数　旧十日町市建物火災　２件

⑵救助出動件数　旧十日町市４件、旧松代町１件

⑶救急出動件数　10月23日～10月31日

267件270人を搬送（１日当たり約30件、平常時の約５倍の出動件数）

地震発生当初は落下物による負傷が多かったが、その後高齢者や通院加療中の病状悪化による急病が増加。避難先での心因性の疲労を訴える人も徐々に増加しました。

また、十日町病院や中条病院が被災したため、入院患者の転院搬送が増加しました。

新潟県中越沖地震

平成19年７月16日(月)、新潟県上中越沖を震源とするマグニチュード6.8、最大震度６強の地震が発生。

新潟県柏崎市、刈羽村、上越市の一部が大きな被害を受ける。十日町地域でも震度５強を観測し、３年前の新潟県中越地震がよみがえりました。

管内の被害が少なかった十日町地域消防本部は新潟県消防相互応援協定に基づき、柏崎市に救助隊、救急隊を速やかに派遣し、救出、救急活動を実施しました。

柏崎市の状況

十日町地域消防本部書庫のロッカーが倒れる

応援救助隊の救助活動

柏崎市消防本部で待機する隊員

待機する救急車

1 出動状況

管内巡視、調査　28件　その他　１件

消防団出動延人員　852人（十日町市消防団、津南町消防団）

2 柏崎市への応援出動

救助工作車、ポンプ車、タンク車、高規格救急車、トラックにて出動。発災初日から10日間で延べ16隊、63人を派遣しました。

長野県北部地震

平成23年３月11日㈮、未曾有の被害を出した東日本大震災の翌朝、長野県北部を震源とするマグニチュード6.7、最大震度６強の地震が発生。

長野県栄村が震度６強。十日町市、津南町で震度６弱を観測し、震源地に近い十日町市松之山地域、津南町で大きな被害を受けるとともに、雪崩や家屋倒壊など積雪期における地震の恐怖を植え付けました。

また被害の大きかった隣接する長野県栄村へ津南町消防団員が応援出動をしました。

栄村内を移動する津南町消防団員

津南町辰ノ口地内土砂崩れ　（十日町地域振興局提供）

地震により道路に段差ができる

津南町小島地内

十日町市中尾地内

1 **出動状況**（同年５月末日まで）

火災出場　１件、救急・救助出動　７件、家屋・河川・道路等調査　38件、土砂崩れ等　14件、自動火災報知設備鳴動　７件、油漏れ　８件

消防団出動延人員　1,037人（十日町市消防団、津南町消防団）

2 **長野県栄村への津南町消防団災害応援活動**

３月16日と18日の２日間で86名が活動しました。

平成23年 新潟福島豪雨

平成23年７月28日から31日にかけて、新潟県・福島県に大きな被害をもたらした平成23年新潟福島豪雨。なかでも、29日午後８時から９時の間に、十日町市は新潟県観測史上の最高値を更新する１時間降水量121ミリを記録するなど、十日町市全域で中小河川が氾濫し大きな被害をもたらしました。

河川氾濫（十日町市川原町）

国道253号線にも泥水が流れ込んだ（十日町市小泉）

傾いた住宅（十日町市六箇山谷）

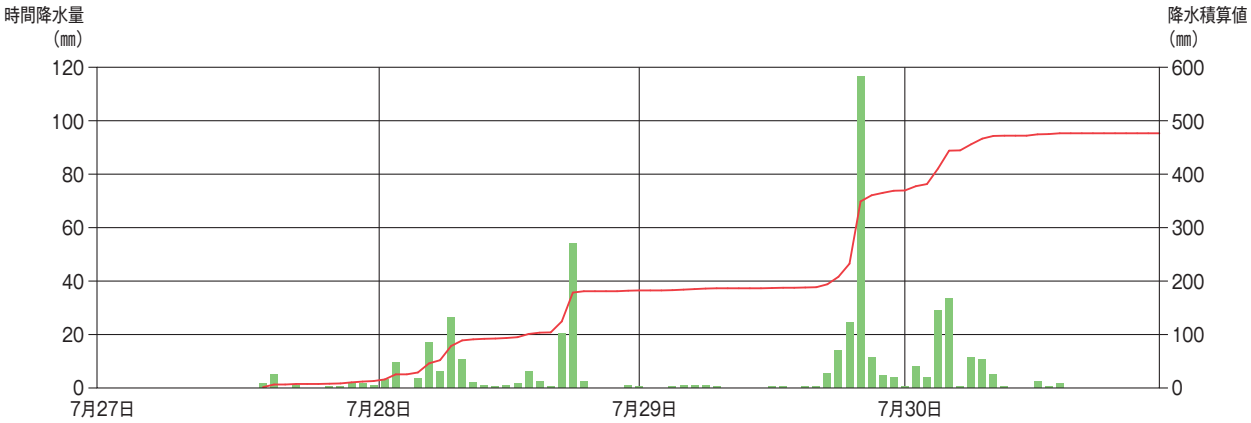
道路崩落も各地で起こった（十日町市小泉）

山間地では土砂崩れなどにより一時孤立する集落も…

２階に取り残された住民を救助

行方不明者捜索のため、羽根川を捜索する隊員

十日町市田麦地内土砂崩れ



十日町地域消防本部観測データ

1 出動状況（７月28日～８月４日）

救助・捜索出動　11件

その他（道路・河川被害調査、住宅浸水調査）69件

豪　雪

冬期間雪に覆われる当管内。平成18年豪雪をはじめ、23年・24年・25年と災害救助法が適用となる豪雪に見舞われ、除雪中の事故、家屋倒壊、雪崩など多くの災害をもたらしました。

また、多くの消防水利は除雪をしなければ使用できず、毎日、毎日除雪の日々が続きました。

空き家に降り積もった雪（十日町市池沢）

屋根から張り出した雪庇にワイヤーをかけ雪庇を除去する

雪崩防護柵のの雪庇落下による、住宅への被害を防ぐために自衛隊員、消防職員、消防団員で雪庇落としを実施（十日町市学校町）

雪崩で押し流され、道路下に約10m転落した車両（国道405号線　津南町前倉）

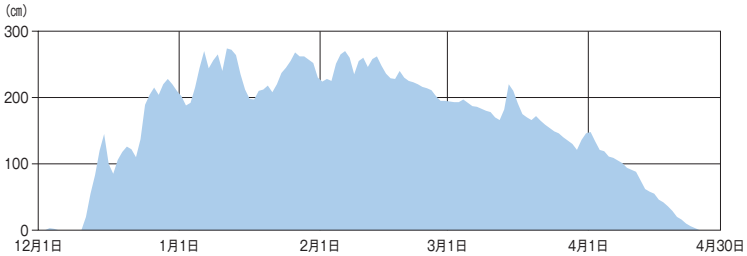
火の見やぐらに積もった雪を落とす

道路わきの防火水槽は完全に埋まっている。はしごを上ってから水利確保が始まる…

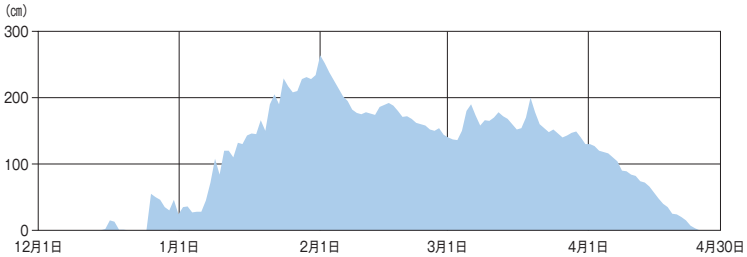
消火栓を掘り起こすまでにかなりの時間を要した

豪雪により災害救助法が適用となった年の積雪状況

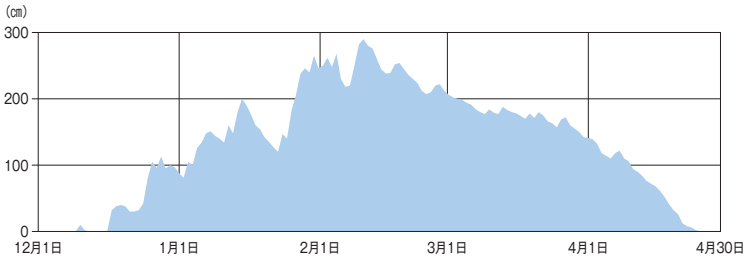
（観測地：十日町地域消防本部）



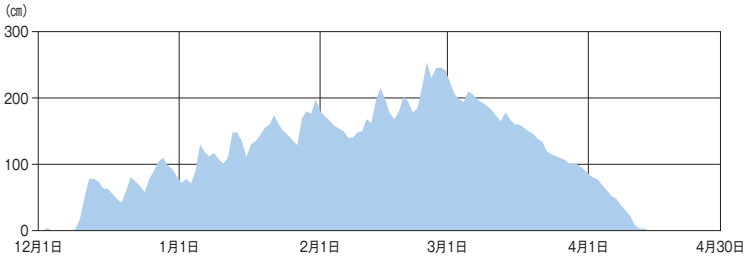
平成17～18年			
降雪累計	最高積雪	最大降雪	消雪日
1,502cm	1月11日	12月24日	4月25日
	274cm	86cm	



平成22～23年			
降雪累計	最高積雪	最大降雪	消雪日
1,227cm	1月31日	1月31日	4月24日
	264cm	64cm	



平成23～24年			
降雪累計	最高積雪	最大降雪	消雪日
1,384cm	2月11日	12月26日 1月28日	4月25
	290cm	60cm	



平成24～25年			
降雪累計	最高積雪	最大降雪	消雪日
1,303cm	2月22日	2月22日	4月11日
	254cm	55cm	

各種訓練

■キャフス（圧縮空気泡消火装置）

十日町消防２号車（緊急消防援助隊登録車両）には圧縮空気泡消火装置を搭載。水放水だけでなく、水に少量の消火薬剤を加え、そこへ圧縮空気を送り込むことにより発泡させ、水の表面積を広げることで効率よく消火することができます。

キャフスによる消火活動

類焼防止のため隣接する住宅に泡をかける

■ロープレスキュー

救急救助活動において、軽量な器材、システムの簡素化、少人数での活動、要救助者への負担軽減などを目的にアメリカで採用されているロープレスキュー技術を平成 22 年度から導入しています。

■ドクターヘリ

平成24年10月30日から新潟県ドクターヘリが運航開始。十日町地域消防本部は平成24年度中、ドクターヘリを42件要請し、14件の出動。県下消防本部の中で最も要請数が多くなっています。

①～③　冬期間積雪のためドクターヘリのランディングポイントが限られるため消防本部前の田を圧雪しランディングポイントを作成

■関係機関との連携訓練

警察、病院、行政など関係機関と円滑に活動が行えるよう、毎年各種連携訓練を行っています。

十日町警察など関係機関との冬季山岳救助訓練

十日町病院、DMAT等と集団救急災害訓練

新潟県防災ヘリとの連携訓練

緊急消防援助隊

緊急消防援助隊登録状況

●登録状況

登録部隊	登録年月日	登録車両
①消火隊	平成17年４月１日	十日町消防１
②消火隊	平成18年４月１日	十日町消防２
③救急隊	平成19年４月１日	十日町救急１
④救急隊	平成22年４月２日	十日町救急２
⑤救急隊	平成23年４月１日	しぶみ救急１

（写真）
右：十日町消防１
左：十日町消防２

（写真）
右：十日町救急１
中：十日町救急２
左：しぶみ救急１

●出場状況

部隊名	出動日	出動先	隊員数
救急隊	平成23年３月11日	宮城県石巻市	５人
救急隊	平成23年４月１日	宮城県石巻市	４人
救急隊	平成23年４月７日	宮城県石巻市	４人
救急隊	平成23年４月16日	宮城県石巻市	４人

※現地活動期間は３日間

救助
技術大会

全国
消防救助技術大会
出場記録

年　度	大会数・開催地	出場種目
平成７年度	第24回／北九州市	ロープ登はん
平成８年度	第25回／札　幌　市	はしご登はん
平成20年度	第37回／北九州市	ロープ応用登はん・ほふく救出
平成24年度	第41回／東　京　都	ロープブリッジ渡過

東北地区支部消防救助技術指導会
出場記録

年　度	大会数・開催地	出場種目
平成６年度	第23回／福　島　市	ロープ応用登はん
平成７年度	第24回／仙　台　市	ほふく救出
平成８年度	第25回／青　森　市	はしご登はん
平成９年度	第26回／仙　台　市	はしご登はん・ロープブリッジ渡過・ロープ登はん引揚救助・ほふく救出
平成10年度	第27回／盛　岡　市	引揚救助
平成11年度	第28回／仙　台　市	ロープ登はん
平成12年度	第29回／新　潟　市	ロープブリッジ渡過
平成14年度	第31回／山　形　市	ロープブリッジ渡過・ロープ登はん
平成15年度	第32回／仙　台　市	障害突破・ほふく救出
平成16年度	第33回／秋　田　市	ほふく救出
平成17年度	第34回／仙　台　市	障害突破
平成20年度	第37回／青　森　市	障害突破
平成21年度	第38回／仙　台　市	障害突破
平成24年度	第41回／鶴　岡　市	障害突破
平成25年度	第42回／仙　台　市	引揚救助

PR活動

平成23年６月から全ての住宅への住宅用火災警報器設置義務化に合わせて、住宅用火災警報器設置率100％を目指し、住宅用火災警報器の設置促進ＰＲに重点をおきました。

また、幼い頃からの防火意識を高めることを目的に平成２年から開催している「消防ひろば」も20回を超え、毎回多くの子どもたちの笑顔があふれています。

毎回人気の「ミニ消防車コーナー」

小さい子でも頑張る「救急コーナー」

ミス十日町
「一日消防長」

うまくできるかな「消火器体験コーナー」

救助工作車と綱引き

車両展示コーナー

きもの祭りで住宅用火災警報器PR

ミス十日町とPR

住宅用火災警報器設置促進PR

ショッピングセンターで園児たちがPR

消防団女性部によるPR

津南町沖の原ひまわり畑に看板設置

雪像で防火PR

火災予防、住宅用火災警報器PR雪像

雪像前で住宅用火災警報器のアンケート

家畜指導診療所

家畜指導診療所は現在、家畜診療・疾病予防衛生支援・人工授精・受精卵移植・飼料設計・畜舎機能設計・養豚妊娠診断・糞尿処理支援・畜産団体事務局・野生鳥獣対策支援など、広範な技術・管理支援サービスを通じ、地域畜産業の発展支援とともに、地域に認められ、貢献できる産業育成を目指し、業務を行っております。

また、関係機関との協力体制の基、常に新しい技術管理サービスを目指し、開拓中です。

新潟県認定の安全畜産ブランドである、クリーンポーク・ミルク・ビーフ・チキンの認定率は県下トップ。

●管内の若手養豚家、　しっぽ会の学習・交流会（後継者率85％）

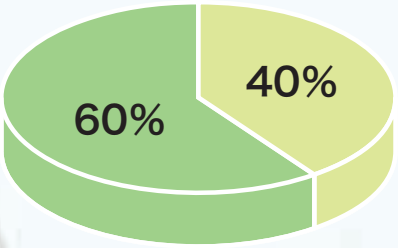
●豚防疫協議会、隔離豚舎組合、中魚人工授精師会など４団体の事務局

●妻有グループが日本農業賞（平成19年）

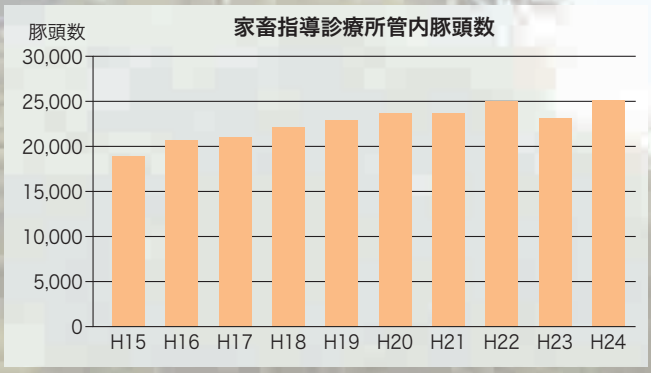
●所員は獣医師３名と事務員（嘱託）１名

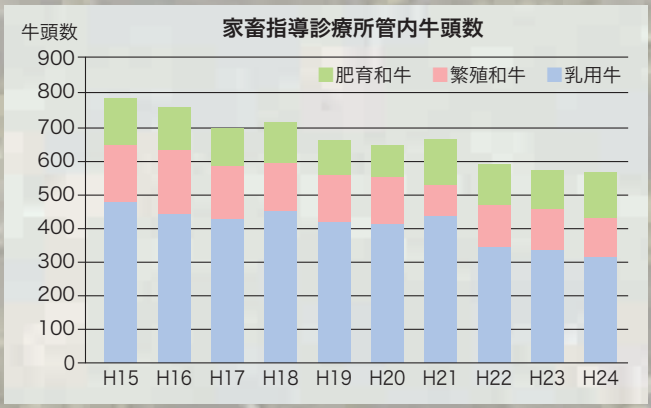
農場 HACCP 指導員３名（今年予定）
畜産環境アドバイザー２名

畜種換算数（牛１豚0.2）で
中越地方最大の畜産地域



十日町・津南地域
他の中越家保管轄地域





●超音波・内視鏡などの活用

●自給トウモロコシのエサで生産するエコ畜産の津南牛乳

●受精卵移植

大地の芸術祭

平成12年から始まり、３年毎に開催し、平成24年に第５回目を数えた「大地の芸術祭」。

世界でも類をみない規模と質を持った大地の芸術祭は、新しい芸術祭のモデルとして、国内外で高い評価を得ています。

平成17年４月、管理、運営に関する事務を十日町市に実質的に移管するまで、十日町地域広域事務組合企画振興課がその事業を展開しました。

作品名／再構築
作者名／行武治美
Photo by H. Kuratani

作品名／ Rolling Cylinder, 2012
作者名／カールステン・ヘラー
Photo by Osamu Nakamura
スポンサー＝株式会社村山土建

作品名／鉢＆田島征三・絵本と木の実の美術館
作者名／田島征三
Photo by Takenori Miyamoto + Hiromi Seno

作品名／まつだい雪国農耕文化村センター「農舞台」
作者名／ MVRDV

作品名／津南のためのインスタレーション―つながり
作者名／瀧澤潔
Photo by Takenori Miyamoto + Hiromi Seno

作品名／花咲ける妻有
作者名／草間彌生
Photo by Osamu Nakamura

作品名／たくさんの失われた窓のために
作者名／内海昭子
Photo by H. Kuratani

作品名／棚田
作者名／イリヤ＆エミリア・カバコフ
Photo by ANZAÏ
スポンサー＝株式会社ベネッセホールディングス

発刊にあたって

十日町地域広域事務組合
事務局長・消防長　齊 藤　　勝

このたび、十日町地域広域事務組合発足40周年という節目の年を迎え、ここに記念誌を発刊することとなりました。

構成市町をはじめ議会、消防関係各位の深いご理解とご協力により、圏域の防火防災の要となる組合消防へと充実発展してまいりました。これまで、ご尽力賜わりました皆様に深く敬意と感謝を申し上げます。

十日町地域広域市町村圏協議会の事業として、昭和48年４月１日に十日町市消防本部・署の機械施設等ならびに各市町村消防団の施設を引き継ぎ、一部事務組合方式で１本部・１署・職員49人で広域消防業務を開始し、現在は１本部・１署・３分署・職員114名に組合職員６名を加え、消防業務及び家畜指導診療業務を中心に邁進しております。常日頃より圏域の防火・防災にご尽力いただいている地元消防団をはじめ、予防広報や危険物施設の保安にご尽力いただいている十日町地域防火管理者協議会・危険物安全協会十日町支部、地域での地道な活動をされている幼年消防クラブの皆様など、地域住民の多くのご支援・ご協力をいただきながら、安心・安全なまちづくりが着実に進んでまいりました。

発足時からを振り返りますと、消防力の発展も目覚ましいものがありますが、今日の消防を取り巻く環境も多種多様、複雑・高度化し、幅広い役割が期待されております。これまで皆様方からご指導いただいた知識を礎に、新たな決意と更なる努力を重ねながら、地域住民の安心・安全の確保に全力を傾注してまいりますことをお誓い申し上げます。

なお、今回発行した記念誌は、前回発行した30周年記念誌以降の内容を中心に編集させていただきました。今後の当組合に対するご理解に、お役立ていただければ幸いです。

編　集　後　記

十日町地域広域事務組合は、発足40周年を迎え、この記念誌を発行することができました。これも偏に関係各位、地域の皆様のご支援、ご協力の賜物であり深甚なる感謝を申し上げます。

40周年記念誌を編集するにあたり、組合組織ならびに前回発行の30周年記念誌からの10年間を振り返り、度重なる大地震、豪雪、水害と自然災害に見舞われたことを決して忘れることのないよう「災害の記録」を中心に編集いたしました。

発行に対し、ご協力いただきました関係各位に心から御礼申し上げます。

平成25年10月

40周年記念誌「鎮」

発行　十日町地域広域事務組合

〒948-0036　新潟県十日町市北新田１番地の10
TEL(025)757-0119

編集　十日町地域消防本部総務課庶務広報係

印刷　株式会社　滝沢印刷